

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【栄和小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語における「主語と述語の関係」についての理解は学校全体の課題となっていることが分かった。系統性を意識しながら普段の授業でも、そして他教科においても「言葉」や「文章」を大切に丁寧に指導していく。
思考・判断・表現	一人1台端末のさらなる活用を通して、よりスムーズな「思考」、正確な「判断」につなげていく。学校課題研修における個人研修を軸として、「個別最適な学び」を模索しながら豊かに表現できる児童を育成していく。
主体的に学習に取り組む態度	生活習慣に関する調査における回答は肯定的な回答が多い。また無回答率は市平均と同等か低い結果となっている。粘り強く取り組んでいる姿を評価しつつ、普段の授業から無回答ではなく何かしらの「学びのあと」を残すような声かけ、指導を行っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査における「知識・技能」について、昨年度結果に対して1pt以上向上させる。そして全国平均と同等以上にする。令和5年度さいたま市学習状況調査においても昨年度結果に対して1pt向上させる。	⇒ 朝学習「ぐんぐんタイム」の計画的実施や読書に係る活動の充実。効果的な掲示物の作成など学習環境整備を図る。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査における「思考・判断・表現」について、昨年度結果に対して1pt以上向上させる。そして全国平均と同等以上にする。令和5年度さいたま市学習状況調査においても昨年度結果に対して1pt向上させる。	⇒ 学校課題研修において教職員の共通理解を図りながら児童一人ひとりが自信をもって発表できるよう手立てや工夫について、研究を重ねていく。
主体的に学習に取り組む態度	市学習状況調査「生活習慣に関する調査」において「学習した内容について見直し、次の学習につなげることができているか？」に対して市平均同等以上を目指すとともに、「無回答率」についても市平均同等以下にする。	⇒ 毎日の授業から「学びの足あと」を残すように低学年から徹底して指導を行う。学習規律の定着を図るべく校内研修等で職員の共通理解を図る。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	今年度実施された全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査ともに昨年度結果を下回る結果となり、目標は達成できなかった。しかし、4年生の算数においては市平均とほぼ同等の結果となり、「知識・技能」に関しては前年度の正答率を上回る結果となった。	C
思考・判断・表現	今年度実施された全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査ともに昨年度結果を下回る結果となり、目標は達成できなかった。改めて学校全体で分析し、共有するとともに新たな策を講じていく。	C
主体的に学習に取り組む態度	各教科の調査結果は具体的な数値が出ていないが、生活習慣に関する調査において「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」に対しては5年生が、市平均を上回る肯定的な回答をした。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語は全国平均を下回った。知識・技能に係る問題では「漢字を文の中で正しく使うことができるか」は特に正答率が低かった。算数も下回り、特に「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる」という問題の正答率が低かった。昨年度比較も下回っていた。
思考・判断・表現	国語は全国平均を下回った。思考・判断・表現に係る問題では「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるか」については、全国平均と同様となったが、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができるか」は正答率が低かった。昨年度比較も下回っていた。
主体的に学習に取り組む態度	児童質問紙において、「国語の勉強は好きですか?」、「国語の勉強は大切だと思いますか?」は全国・県平均どちらも上回っており、意欲的な面が見られる。それをどのようにしたら結果に結びつけることができるか検討していきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語においては「主語・述語の関係」が市平均同様正答率が低かった。一方で「既習の漢字を文の中で正しく使うことができる」は正答率が高かった。算数においては「小数の減法」、「単位の関係」が市平均同様正答率が低かった。「重さの計算」、「球の特徴」については正答率が高かった。問題が進むごとに無回答率が増える。※令和5年度の調査結果は参考値扱いとなります。	小4	国語においては3年生同様「主語と述語の関係」の正答率が低い。一方「指示語の役割」については9割の正答率となった。算数においては、「適切なグラフを選択する」問題の正答率が低く、「ひし形の特徴」については正答率が高く、市平均を上回った。無回答率については市平均と比較して相対的に低く、粘り強く取り組んでいる。※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。
小5	国語においては、「主語と述語の関係」についての正答率が低く、学校全体の課題といえる。「既習の漢字を文の中で正しく使える」問題の正答率が高かった。算数においては、「基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶ」問題の正答率が低かった。「二つの数量の間にある関係から、対応する値を求める」は正答率が高かった。※令和5年度調査結果は参考値扱いとなります。	小6	国語においては、「主語と述語の関係」の正答率が低かったが、市平均とほぼ同等であった。「必要な語句について、辞書を利用して調べる」問題は正答率が高かった。算数においては「データを二次元の表にまとめる」問題の正答率が高かった一方で、「縮尺を基にして、実際の長さを求める」問題の正答率が低かった。無回答率は市平均と比較して低い。※令和5年度の調査結果は参考値扱いとなります。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒
思考・判断・表現	変更なし	⇒
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒